

議会報告・活動報告

筑西市議会議員

みさわ 隆一

筑西！
愛しています！

これまでの3期11年間の皆様からの温かいご支援とご協力に心より感謝申し上げます。
私、みさわ隆一は、「子どもに夢を」「高齢者に自由を」「現役世代に安心を」を3大テーマとして、これからも市民の皆さまと連携し、知恵と行動力を駆使し、「批判」よりも「提案」そして「実現」をモットーに地域課題の解決に向け全力で取り組んでまいります。



Vol.13

みさわ隆一の政治活動 ～これまでの歩みと未来への約束～

平成27年9月～現在 全国災害ボランティア活動スタート 命を懸けて命を守る！

関東・東北豪雨災害、鬼怒川氾濫による伊佐山地区・船玉地区での復旧活動が私の災害ボランティア活動元年となりました。農業被害は2億円を超え、床上浸水：71棟・床下浸水18棟・家屋浸水118棟、計207棟の被害が出た復旧作業では筑西市内の様々な団体や個人の皆さまと泥だらけになりながら作業したことは今でも記憶に鮮明に残っています。この後、船玉地区では令和元年1月にも台風19号による床上下浸水被害を受け二度目の泥だし作業に入りました。この時の全国ボランティア議員連盟の皆さまとの出会いが、その後の全国での災害支援活動のきっかけとなり、その後、熊本地震・九州北部豪雨災害・西日本豪雨災害・千葉県台風15号・日立、高萩水害・能登半島地震他での被災地の現状や被災者の悲痛な声をうかがうことで、災害対策全般について現在まで約11年に及ぶ議会での質問や提案を重ねてまいりました。日本は災害大国です。激甚化・多発化する自然災害では、「いかに早く安全に逃げるか」が今の私の考える最大のテーマです。



平成28年6月～現在 ちくせい寺子屋開校 学びたい子にはとことん学ばせたい！

最初の立候補での公約で掲げていた「家庭環境に関わらず進みたい道へ」「どんな環境にいる子でも無料で学べる学習塾を作りたい」との想いを胸に、数々の自治体を視察し、社会福祉課さんやNPO地球の保健室さん、教職を退職された先生方がスクラムを組んでスタートしてくれたのが「ちくせい寺子屋」です。ベテランの先生方が学習支援はもちろん、生活上の悩みなど心情に寄り添い、今では子ども達の大切な居場所にもなっております。(これまですべての子ども達が希望の学校に進学しています)

私自身、13歳から母子家庭で育った経験から、貧困や学ぶ環境の問題で自分の将来の夢をけっしてあきらめることなく、せめて子ども達が社会に出る時には誰もが同じスタートラインに立たせてあげたい！との想いはいささかも変わっておりません。



平成28年8月～現在 筑西こども食堂「有りの実」食事と人のつながりで新たなコミュニティを創る！

関城地区の3人のお母さん方からの「子ども達の安らげる居場所を作りたい」との声から動き始めた「こども食堂 有りの実」は、筑西市には無かった新たな取り組みのため様々な課題がある中、お母さん方の熱意とその後に増え始めた仲間の絆により実現しました。毎週、子ども達だけでなくご高齢者も立ち寄り、ベテラン主婦のお母さん方の温かい栄養バランスの整ったおいしい手料理をみんなで一緒に味わいながら楽しい時間を過ごしています。

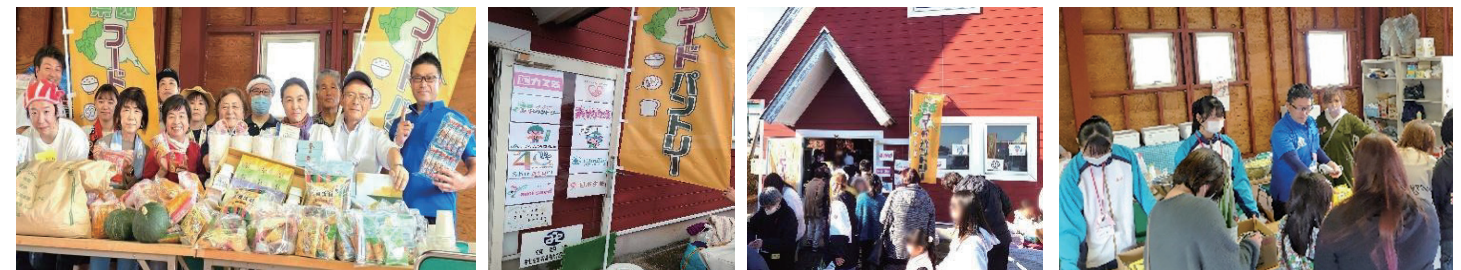
今では社会福祉協議会、福祉・経済団体や商店、農家さんやボランティアさんのご協力も増え、今後の地域課題でもある地域コミュニティの確立によるセーフティネットの役割を担っています。現在、「有りの実」をモデルに市内に6か所のこども食堂ネットワークが誕生しています！



令和3年12月～現在 県西フードパントリー「もったいない」を「ありがとう」

フードパントリー事業とは、「捨てない社会を実現」するため、企業さんや各家庭から寄付されたまだ安全に食べられる食品を活用し、経済的理由や現在必要とされる方々に、お米やレトルト食品、缶詰、お菓子、野菜などを無償で提供させていただいております。今年で5年目をむかえ、現在メンバーも増え、支援の輪も広がり、個人や農家の皆さま、企業や各種団体など多くの皆様から食料品・日用品・衣類など様々なご提供いただいております。

また、広沢商事(株)様より倉庫のご提供、筑西市及び社会福祉協議会からはフードドライブ実施や利用者への広報支援などの協力により、これまでの課題も改善に向かっていきます。生活困窮世帯への支援とフードロス対策の観点からも、この事業のネットワークを地域の皆さまと共に茨城県内外に今後さらに拡大させてまいります！



平成25年～現在 朝の見守りボランティア活動 子どもの未来と命を守る！

毎朝、小中高の子ども達と交わす挨拶は、私にとって元気をもらえる楽しみとなっております。子どもの成長は本当に早く、立派に成長してくれるのは嬉しいものです。大きなランドセルを背負った小さな1年生が、いつの間にか社会人となりハンドルを握る姿に時の早さを感じます。やはり子ども達の未来を守るには、まずは子どもの「命」を守ることこそが重要だと最近改めて思います。まだまだ活動を辞めるわけにはまいりません！現在14年目、私の「被害者も加害者も出さない」見守り活動はこれからも続きます！



子ども達・ご高齢者・現役世代、誰もが平穏で「当たり前」の普通の暮らしが維持できる社会を目指し、私みさわ隆一は、これからも皆さまと共に歩んでまいります。

議会報告 一般質問



おかげさまで議員生活も3期11年を過ぎ、これまでの筑西市議会定例議会において、一度も休むことなく45回全てにおいて一般質問を行うことができました。これも市民の皆さまはじめ、市執行部・職員の方々のご協力があったことです。改めて心より感謝申し上げます。

※QRコードを読み込んでいただくと、一般質問の動画を見ることができます。

高齢者に対する公共交通機関の果たす役割について 市の総合的な見解は？

令和7年 第4回定例会

三澤	高齢者にとって健康増進や生きがいの創出に大きな影響を及ぼすと思われる公共交通機関の果たす役割について市の総合的な見解は。
市長	高齢者の外出は運動機能の維持・向上、ストレス解消など、心身の健康につながり、自立した生活を営み続けるには公共交通機関の役割は大きいと認識している。
三澤	大きな基幹バスと小さい支線ワゴンバスという2段階での交通システムを確保し、一市三町、小中学校区などに地域を分け、小さなワゴン車で細かく巡回しながら基幹バス停留所や駅を経由し目的地に行ける、だれでも自由に乗り降りできる小さなワゴンバスを導入する考えは。
市長	車両や運転手の確保、費用面で非常に困難ではあるが、高齢者の自立した生活を営むためにも今後、総合的な計画を検討してまいりたい。

みさわ の 視点

わが市は縦15km横20kmと可住地面積が広く、住居が点在しており、かつては世帯当たりの乗用車普及台数日本一にもなった我が筑西市。それだけ車が無くても生活できない地域なのです。免許を返納された方々が年々多くなる中、公共交通問題は今や高齢者にとっては「生活の足」であり、独居・高齢者世帯にとっては「生きるための足」であります。高齢者の「自由」や「生きがい」が奪われれば心身の健康にまで重大な影響が及びます。公共交通はもはや福祉の観点での予算を含めた改善が必要です。ご高齢者の生活を支えるのは我々の責任でもあります。



「半農半X」に関心のある層をターゲットにした 二地域居住促進に取り組む考えは？

令和8年 第1回定例会

三澤	「第3次総合計画」の基本構想の計画期間の20年後、我が筑西市ではどんな影響が考えられるか。
企画部長	人口減少、高齢化により、経済活動や社会保障制度に深刻な影響を及ぼし、労働力不足、医療・福祉サービスの需要が急増が考えられる。
三澤	これまでの人口減少対策と効果は。
企画部長	「誕生祝金事業」「小学校入学祝品支給事業」「奨学金返還支援事業」などを実施し、転入者数が転出者数を上回るなど社会増として効果が現れている。
三澤	市の魅力は自然豊かで豊富な農産物。農業+自分の仕事の両方で生活する「半農半X」に関心のある層をターゲットに二地域居住促進に取り組む考えは。
市長	農業は重要な地域資源であり、都市住民との新たな関りを生み出す可能性がある。今後、国の動向や先行自治体事例を踏まえ検討する。
三澤	今後も10代、20代の東京圏流出が課題である。常総線の守谷駅までの高速化なども地域公共交通計画の中で協議すべきでは。
都市整備部長	難しい課題であるが、様々な機会を通じ意見を伝えてまいりたい。

みさわ の 視点

筑西市は都心から約70km、電車や車で約1時間半～2時間とアクセスも良い。都会から一番近い田舎として二地域居住に適した地域です。「都会と田舎で自由と安心な暮らし」田舎で暮らしながら都会で仕事することは今やオンラインもあり農業と自然の中での健康的な暮らしが可能な時代です。そこに移動時間が短縮できれば現実性が増します！待っているは何も変わらない。今後も筑西市での経済的・精神的なゆとりのある生活の実現を提案してまいります！



高齢者福祉と医療・介護の観点と同様に 公共交通の在り方を考えるべきではないか？

令和8年 第2回定例会

三澤	現在、高齢者の孤独死が社会問題になっている。これを防ぐために市が考える施策は。
福祉部長	高齢者が社会参加や地域との交流など、一人一人が地域社会で顔の見える関係を築くことが、孤独死防止につながるものと考えている。
三澤	高齢化が進む今、商店や診療所、公的機関など生活サービスや交流の場を集約し、地域の暮らしを守る、「小さな拠点づくり」という国の指針があるが、本市の考えは。
部長	市内には鉄道路線、幹線道路網、商業施設等が一定程度確保されていると認識している。
三澤	高齢化が進む今こそ、小中学校区などに小さくエリア分けした拠点内を、小型のワゴン車等で短時間で細かく何度も巡回し、様々な生活拠点を繋ぐことで、病院や買い物、公的機関や専門店など地域内である程度高齢者の日常生活が完結できるような昔ながらの「小さなコミュニティ」の復活を実験的に進める時期ではないか？
都市建設部長	現在、市民の移動需要を支えるデマンドタクシーを市内全域で実施している。今後、本市に必要なが生じた場合は検討してまいりたい。
三澤	高齢者福祉と医療・介護の観点と同様に、高齢者の生活の足である公共交通の在り方も福祉の観点で予算増額も含め考えていく時期に来ているのではないか？
市長	循環型ワゴンバスは地域全体の福祉向上に寄与する。今年度、公共交通計画の見直し時期であり、福祉の視点を交え新しい計画の検討を進めたい。

みさわ の 視点

私の考える「小さなコミュニティ」の考え方とは、国が提唱する「コンパクトシティ政策」にある中心市街地に人々が移住し集約させる考え方とは違い、今の居住地を維持しながら、もともとあった小さなコミュニティ（昔ながらの助け合いの精神）を見直し、地域内の診療所・商店・公的機関・各種店舗などにより、日常生活が完結できる環境づくりのことです。それには、コミュニティ内を細かく巡回できる小さな車両でだれもが自由に移動できる手段が必要になります。高齢化が進むこれからが「地域のつながり」「移動手段の確保」を中心とした新たな「ちくせいスタイル」を確立すべきときです！



令和5年	第1回	民間フリースクールへの支援を！ 他
	第2回	筑西市のフードロス対策について！ 他
	第3回	働き方改革! 教職員の業務削減について 他
	第4回	移動手段の無い交通弱者支援について! 他
令和6年	第1回	自然災害に対する筑西市の取り組みについて! 他
	第2回	小中学校での熱中症対策について! 他
	第3回	夏休み明けの児童生徒の体調管理について! 他
	第4回	ボランティア活動への地域ポイント提供について! 他
令和7年	第1回	交通弱者のための交通網改善について! 他
	第2回	災害時に備えた学校体育館への空調設置について! 他
	第3回	長期休暇後の子ども達のSOSへの対応について! 他

※過去の一般質問の動画については、筑西市ホームページ・筑西市市議会 議会の放映三澤隆一のページからご覧いただけます。

【事務所】筑西市一本松 1234-1 TEL・FAX 0296 (25) 5838
E-mail misawa.338@docomo.ne.jp

【自 宅】筑西市玉戸 1336-317

各SNSで情報発信中！

Facebook



LINE



Instagram

